

(3) 指導観

本時は、学習課題を「どのようなことを確認すれば、よりよい衣服の購入を行うことができるか考え、実践へ向けての意欲をもつことができる。」とし、「もったいない」という言葉や考え方を足がかりとして授業を展開したい。学習過程において、初めにアンケート結果から購入がうまくいかなかった原因を考えさせることで、生徒にとって身近な課題としてとらえさせたい。次に、衣服の購入について4つの場面を設定し、各場面においてよりよい購入方法をアドバイスするという形式で考えを深めさせたい。更に、今後自分が衣服を選択、購入する場合において、気を付けたいことや確認したいことをまとめさせたい。また、「資源を大切にすること」という観点から、アンケート調査で例が挙げられたリメイクについて事例を紹介することで、環境への配慮についての関心も高めたい。また、グループでの意見交換の場を設定し、生活の課題を解決する能力をはぐくむための活動を取り入れた。なお、本時は、販売方法を店舗販売に限定し、その他の販売方法への対応については「D 身近な消費生活と環境」で取り扱う。

3 題材の指導計画（5時間）と評価規準

小題材	時間	学習目標	評価規準			
			関心・意欲・態度	工夫創造	技能	知識・理解
衣服のはたらき	1	衣服の社会生活上のはたらきについて理解し、目的にあった服装を考えることができる。	衣服の社会生活上のはたらきに関心を持ち、TPOに応じた衣服を着用しようとしている。			衣服の社会生活上の機能について理解している。
自分らしく目的に合わせた着方	1	目的に合わせた衣服を選び、自分らしく着るためのカラーコーディネートを考えることができる。		目的に応じた着方や自分らしく着るためのカラーコーディネートを考え工夫している。		
衣服の活用と選び方	3 本時 3/3	既製服を選ぶポイント、サイズや取扱い絵表示の見方を理解し、衣服の適切な選択について考えることができる。		既製服の表示の種類や意味について調べたことをもとに、工夫して選択することができる。	既製服を選択するために必要な表示などの情報を収集・整理することができる。	環境に配慮して、衣服の計画的な活用の必要性を理解している。既製服の表示と選択に当たったの留意事項について理解している。

4 本時の学習指導

(1) 本時の題材 衣服の活用と選び方

(2) 本時の目標 どのようなことを確認すれば、よりよい衣服の購入を行うことができるか考えることができる。

(3) 学習指導過程

	学習内容及び学習活動	指導上の留意点	評価	準備
つかむ	1 アンケートの結果から、衣服の購入の実態を知る。 2 本時の課題を確認する。	○ 衣服の購入について、自分たちの実態を知り、よりよい購入についての関心を高める。		アンケート結果
	よりよい衣服の購入をするためには、どのようなことを確認すればよいだろうか。			

考える	3 自分たちの「うまいかよかった」購入の実態をもとに、どのようにすれば改善できるかを個人で考え発表する。 ・ 試着すれば良かったのでは。 ・ 肌触りを確認すれば良かったのでは。	○ 購入時に「○○すれば良かったのでは」という表現を用いさせることで、衣服の購入時に確認させたい事項をより多く出させる。 ○ 一人一人が意見をもてるよう、机間支援を行う。		ワークシート
深め合う	4 衣服の購入の具体的な場面で、よりよい購入を行うために確認した方がよい内容を考え、グループでまとめる。 ・ 試着をすると良いと思う。 ・ 取扱い絵表示を確認すると良いと思う。 5 グループの意見を全体で発表する。 ・ 1着の衣服の購入でも、多くのことを考える必要があるな。	○ まずは個人で考えさせ、一人一人に意見をもたせる。 ○ グループ活動においては、司会者を立てさせ、グループの全員が発言できるようにする。 ○ お互いの意見を大切にさせ、共感し合う雰囲気作りに努める。 ○ 適切な購入ができた経験のある生徒に自分の取組を紹介させる。		ワークシート 短冊 短冊
広げる まとめる	6 今後、衣服を購入する場合に、どのようなことを確認したいかについて自分の意見をまとめる。 ・ これまでは、「色」や「デザイン」だけを考えていたが、これからは「取扱い絵表示」も確認したい。 7 リサイクルやリメイクの例を紹介する。 8 評価を行う	○ 今の衣服の購入について想定させ、確認したいことをまとめさせる。 ○ 意図的指名を行い意見を発表させることで、より良い衣服の購入についての意欲を高める。 ○ アンケートの結果から参考となるリメイクの例などを紹介させる。 ○ 自己評価及び相互評価を行わせることで本時を十分に振り返らせる。	よりよい衣服の購入について考え、実践しようとする意欲をもっている	ワークシート ワークシート

5 授業実践

(1) 指導の工夫

① 内容の工夫

ア 導入及び授業の前半において、アンケート結果を取り入れることで、課題を自分たちの生活により身近な問題としてとらえさせるとともに、自分の生活と結びつけて考えさせることとした。

イ 日常着の購入の場面を設定し、より多くの視点をもって衣服の購入を考えることができるようにした。

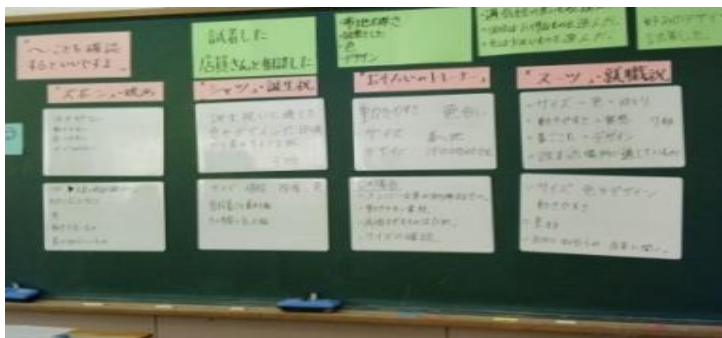
設定場面	
1 映画を見に行くときにはくズボン	3 クラスの仲間を着るおそろいのトレーナー
2 誕生日のお祝いの時に着ていく洋服	4 就職が決まったお祝いを買ってもらうスーツ

ウ これまでの衣服の購入において、「良い購入ができた」という経験をもつ生徒に、購入時の確認事項を紹介させることで、生徒一人一人が自分の購入について改めて考えさせることとした。

エ 生徒のリメイクの実物を提示することで、資源を大切にすることへの関心を高めることとした。

② 板書の工夫

黒板には生徒の意見を、ホワイトボードには「既製服の選び方」を提示することで、基本的・基本的な内容を確認させた。



(2) 言語活動の充実

グループ活動の前に、各自で考える時間をとることで、生徒一人一人に自分の意見をもたせることとした。またグループの意見交換の際に、司会者と記録者を立てさせることで、グループ内で全員が発言できる場を設定した。

3 例の場合に、購入の時に確認した方が良いと思うことについて、書き出してみよう。
● 暗い色の服ではなく、明るい色を選ぶ
● 護生視いに適した改めたデザイン
4 グループの話し合いで、参考になる意見をメモしよう。
色、護生衣に適した!! デザイン、サイズ、日曜から着て◎

(3) 生徒の感想

- 今日グループで出た意見を参考に、動きやすいか、サイズはどうか、色合いはどうかなどしっかり確かめてから買うようにする。制服の上に着るので、店員さんにも相談したい。
- これから先も着られるかや、自分の持っている服と合うかなど、「今」だけ着れるかでなく、「これから先」も着られる服を選ぶようにしたい。無駄にはならないようにしっかりと確認したい。
- 素材なども調べたいと思った。私は汗かきなので、汗の吸収性も確認しようと思った。
- 今後は、目的や手入れ、保管がしやすいか、返品、交換が可能かまで確認して衣服を購入したい。
- 場所に合ったものや季節、自分に合っているかを確認し、サイズや着心地で満足できるようなものを買入したい。「もったいない」ということを常に考えて、衣服の購入を確認していきたい。
- ボタン付けや縫製、保管のしやすさなど、細かな部分にも目を向け、長く着ることのできる衣服を選択し、お金の無駄遣いをなくすとともに、資源の節約にも協力できるようにしたい。
- なるべく長く着たいので、試着をして着心地や素材などを確認し、その場に応じたデザインを選びたい。価格やサイズにも着目し、返品できるかどうかまで確認できるようにしたい。

6 成果 (○) と今後の課題 (●)

- これまでの自分の衣服の購入について振り返らせるとともに、失敗をなくしていきたいという意識を高めることができた。
- 友人の「よい経験」や「リメイクの例」を知らせることで、衣服の購入や資源の活用についてより身近なことから捉えさせることができた。
- 生徒の意識や関心を確認するため、追跡調査を行う必要がある。
- 「身近な消費生活と環境」においても関連させることで、生徒の意識をさらに持続させるとともに、店舗販売以外の販売方法における購入についても考えさせる必要がある。

【テーマ2 衣食住における実践 高等学校】

宮崎県立高鍋農業高等学校 根井貴香

1 題材名

家族の生活と住空間を考えよう

「物件情報を読み取り、自分の考える条件や収支に見合った物件を検討する」

2 題材設定の理由

(1) 生徒の実態

本校は、全国唯一の3年間寮生活をしながら学校生活を送る農業経営者育成高等学校である。園芸科学科、畜産科学科、食品科学科、フードビジネス科の4学科があり、将来、宮崎の農業を担う人材や食品関連産業・等に従事する人材の育成に努めている。男女比は2:1、就職希望者が全体の6割を占め、卒業後は自立して生活する生徒が多い。本クラス(フードビジネス科1年40名・うち7名寮生)は、意欲的に授業に参加する生徒が多く、家庭科に関して興味をもっている印象を受ける。しかし、活発な活動をする生徒がいる反面、おとなしい性格の生徒もおり、そのような生徒達をいかに授業に参加させるか常に考えている。

(2) 題材観

本校生徒の約7割は寮生活を送っており、与えられた住空間の中で3年間を過ごしていたため、住環境の大切さに気付く機会は少ない。より良い生活を送るために改善や工夫したいものを挙げさせると「食生活」という回答は出るが、「住まい」という回答はなかなか出てこない。住生活を整えることが、日々の生活の充実や満足につながることを理解させ、「住まい」をもっと身近に感じさせるような授業を展開したい。消費生活分野の目標に、「消費行動における意思決定の過程とその重要性について理解させ、生涯を見通した生活における経済の管理や計画の重要性について認識させる」とある。自立を踏まえ、よりよい意思決定能力を育てていくために、理由を考えながら選択することで、自分の消費行動を見直す機会にしていこう。今回は、住生活と実生活、また「消費生活分野」との関連付けを行いながら、住生活分野を進めていく。授業では具体的な賃貸物件を示し、住居選択の場面を設定することで、意思決定に至る過程を確認させたい。

(3) 指導観

本校では「家庭総合」を履修している。寮生活による集団生活において得るものは数多くあるが一方、生活経験が乏しくメディアからの情報が少ない。また、大人からの文化の継承など、不足している部分も多く、実際にトラブルに遭う生徒も多数いることから、消費者教育の充実の必要性を実感している。単に選択するというのではなく、じっくりと順序立てて考える過程が大切であるということを指導し、よりよい選択、意思決定能力を育てていきたい。住居分野では、今までは平面図を読み取るのに必要な記号や語句の学習をし、物件を選択するという授業であった。それを消費経済分野の「よりよい選択」の視点と融合させながら、学習することによって相乗効果生まれるのではないかと考える。意思決定能力は、家庭科教育全分野において育むべき力である。自立した一人の消費者としてよりよい選択ができるようにしていきたい。

3 指導目標

- ・討議と発表を通して賃貸物件を選択する場合、様々な見方があることを理解する。
- ・意思決定の場面において順序立てて考える力を育成する。

4 指導計画 「家族の生活と住空間を考えよう」(3時間)

- ・家族と住空間・・・・・・・・1時間
- ・住空間の計画・・・・・・・・2時間(2/2時間)

6 本時の学習計画

学習段階		学 習 内 容	生徒の学習活動	指導上の留意点	評 価
過程	時間				
導 入	5分	○前時を振り返り、本時の学習内容を確認する			
展開 I	5分	○部屋を賃貸する時に重視したいことを記入したカードを黒板に貼って発表する	○班で話し合いながら、カードに記入したものを黒板に貼って発表する ○他の生徒の発表を聞く	○趣旨がそれないように注意する ○生徒が記入した以外の条件を用意しておく	
展開 II	10分	○ダイヤモンドランキングによって重視する条件の重要度を考える ○他の生徒と比較する	○黒板を見ながらダイヤモンドランキングに記入する ○他の生徒と比較する	○書けているかどうか机間指導する	
展開 III	20分	○物件を読み取る ○ワークシートに沿って自分の考えを整理しながら、物件を決める ○物件ABCを選択した理由を聞く	○ワークシートに記入しながら、自分の考えを整理していき、物件を決める ○他の考えがあることを知る	○ワークシートに沿いながら説明をしていく ○書けているかどうかを机間指導する	自分の考えを整理し、意思決定ができる
まとめ	5分	○本時の振り返り ○次時の連絡をする	○本時を振り返り、次回の内容を知る	○身近な問題として学習していることに気付かせる	

6 授業実践

消費生活分野の学習において、給料明細を見ながら、収入の中から保険や、税金、預貯金、消費支出等に収支を合わせる授業を行った。授業後には「親は大変だなと思った」「こんなに税金に取られるとは思わなかった」などの感想が見られた。今回の住居分野における意思決定という授業を行うにあたり、事前に、収入に占める住居費の割合が一般的には収入の3分の1であることや、平面表示記号・賃貸物件に関する語句等の学習を行っている。

意思決定の際、以下のようなスモールステップを踏みながら、考えを整理させた。

【シミュレーション：社会人として新生活を始めよう】

- ①1人暮らしをするアパートを選ぶ希望条件の記入→ ②ダイヤモンドランキングの作成→ ③隣の()さんのランキングと比較→ ④家賃の予算検討→ ⑤②と④を踏まえた物件の検討→⑥クラスみんなの意見発表

①前時にアパートを賃貸する際の希望条件を考えさせ、白紙に記入させた。「風呂トイレ別」や「オートロック」など生徒から出にくいと思われる条件は事前にこちらで準備した。

②貼り付けた条件を見ながら、自分の希望条件のダイヤモンドランキングを作成させた。「最重要」に配置した理由も記入することによって、自分の意思決定に至る過程のステップとして考えさせた。生徒には、「自立した生活を送る場合、買いたい物を買いたいだけ買うことができる訳ではない。部屋の理想条件を全て満たすことは難しい。優先順位を考えることが重要」ということを伝え、ダイヤモンドランキングを作成する意義を理解させるようにした。

③隣の生徒同士でランキングを確認し合った。それぞれの考えを相互理解することで、自分とは違う価値観があることを知り、自分自身を振り返ることができた。

※生徒各自の家賃の予算を□万～□万と幅を持たせて記入させ、以下の3つの物件を提示した。

物件A(一般的な単身者物件)	物件B(シェアハウス)	物件C(オール電化住宅)
・家賃¥45,000、共益費¥3,000	・家賃¥24,000	・家賃¥50,000、管理費¥1,000
・希望すれば駐車場 ¥8,000	・電気水道ガス代固定(各¥1,500)	・オール電化(電気効率のよいエコキュート使用)、1LDK・南向き、エアコン、バストイレ別、フローリング、希望すれば駐車場 ¥5,000
・一般的なひとり暮らしの間取り、1K	・複数の人と住む	
・施設・設備充実	・多目的スペースにて多数の人の出入り有	
・敷金¥0、礼金1ヶ月	・キッチン・浴室・トイレ共同	・敷金¥0、礼金2ヶ月

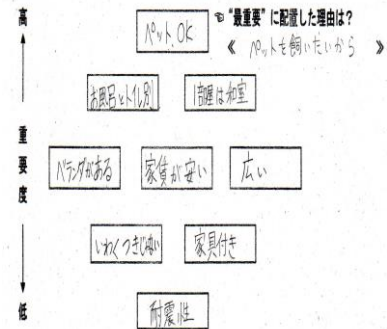
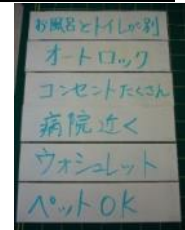
④⑤ 現在増えつつある、シェアハウス・オール電化住宅も選択肢に入れた。いずれもよい点と気になる点を書き出し、選んだ理由を記入させた。物件を読み取った上、自分の考えを整理し、意思決定ができるように机間指導を行った。その際、賃貸の契約や引っ越しには多額の費用が必要なため一度決定したら簡単に引っ越すことは難しく、慎重な意思決定が必要であることを伝えた。

⑥ クラスの意見を聞き、その後、それぞれの意見を聞いて、自分自身の考えが、「変わった」「少し変わった」「変わらない」を尋ねた。40人中18人が「変わった」「少し変わった」を選び、生徒たちは他人の意見を聞くことも大切なことであり、様々な考えがあることを理解していた。

⑥クラスのみんなの意見は？

- ・物件A (15)人
- ・物件B (2)人
- ・物件C (13)人

まとめとして、「社会に出ると自分が何を優先させて生活や人生を送っていくのかという選択の連続である。よりよい選択をすること、意思決定能力をつけることが生活の充実に直結する。」と結んだ。



7 成果 (○) と課題 (●)

- 「消費生活分野」と「住生活分野」の内容を融合させたことで、授業時数や内容の効率化を図ることができた。このことは他分野にも共通するので、今後も研究を続けたい。

(生徒の感想 抜粋)

自分で部屋を決められるのは良いけど、どんなことでも重要視するのを考えるのも大切だとわかった。将来自分が人暮らしするには、すく、ためになった。
どんな生活がしたいかを決めるのも大切だと思った。

- 題材に対してのアプローチの仕方に変化があった。「自立」「将来」「消費者としての自覚」「意思決定能力」などキーワードを頭に置きながら、授業を進めるようになった。
- 物件の選択については、自宅生と寮生で考えに差があり、集団生活への慣れが数字として表れた。また、環境に配慮した物件も人気があり、生徒の感想からも、環境について無関心ではないことも分かった。
- 1・2年生の履修のため、自立や卒業、社会へ旅立つといった直近の目標が明確でなく、自分のこととして意識できない生徒も見られた。具体例を示しながら、身近な問題として考えられるような工夫が必要である。
- 知識や技術を習得させるだけでなく、自立した人間を社会に送り出さなければならないことを痛感した。

5 まとめ

- 「金銭の使い方」のグループでは、商品を購入すること以外の選択肢はないのかを考えさせたり、商品の具体的な金額や情報を提示したりすることで、本当に必要なものに対して、限りあるお金を有効に使うことの大切さに気付かせることができた。しかし、ものやお金があることを当然と思っている子ども達に、生活するためのお金を稼いでいる人への感謝する気持ちをもたせることや、ものやお金があることのありがたみを実感させることの難しさも改めて感じた。
- 「衣食住における実践」のグループでは、各分野において商品を選択する能力が必要となることから、一人一人が何を基準に選択するかを考えさせる時間を多く設定し、日頃の自分の消費行動に問題点はないか振り返らせながら、よりよい選択について思考を深めさせた。また、班での話し合い活動を取り入れることにより、多様な価値観に気付かせるとともに、家族の一員として、社会の一員としての役割を果たすためには、「もの・お金・資源」に限りがあるという共通認識をもって生活することが大切であることも感じさせることができた。
- 全ての授業実践において、「どのような行動や選択が望ましいのか」について考え、自分自身で判断し、選択させる具体的な場面を設定したことにより、意思決定に至る過程を意識させることができた。このことにより、生活の中の様々な場面において、自分の行動が現在及び将来の世代にわたって環境に影響を及ぼし得るものであることを自覚させるとともに、判断力や選択力を備えることの必要性に気付かせ、豊かな人間性の重要な要素である他者と協調する力や自律的社会生活を送るための実践力につなげることができた。
- 小・中・高校において共通テーマで研究したことにより、発達の段階に応じたそれぞれの目標や指導者として果たすべき役割が今まで以上に明確となった。校種を越えて授業研究を行い、お互いの授業を参観したことで、小学校では家族の一員としての視点、中学校では自己の生活の自立を図る視点、高校では生涯を見通して生活を創造する視点と、それぞれの違いを改めて実感することができ、自分が育てなければならない力は何なのかを皆が確認できたことは、大きな成果である。
- 子ども達は、家庭科の授業をとおして、家庭や家族の大切さを感じたり、愛情を込めたものづくりの素晴らしさを実感したり、子どもから高齢者まで全ての人が快適に生活できる社会について考えたり、日々の生活と環境との関わりに気付いたりしながら成長している。今回、「もの・お金・資源を大切に育てる心」を研究テーマとして取り組んだことで、家庭科は、豊かな人間性をはぐくむために本当に大切な教科であることを再認識することができた。これからも、子ども達にとって大切な教科を担当していることに誇りをもって教壇に立ちたい。